

## 消化器血液内科の新たな出発の年

2020年初頭からの新型コロナウイルスの蔓延に翻弄され続けてきたこの2年半ですが同門の先生方はいかがお過ごしでしょうか？消化器血液内科にとりまして、2022年は大きな節目の年となりました。開講依頼40年以上にわたり消化器血液内科として発展してきた我々の教室ですが、10月1日より血液内科教授として村田誠先生をお迎えして、血液内科が独立して新たな歩みを開始することになりました。社会の高齢化とともに血液疾患の患者数も増加の一途であり、しかも医学の進歩に伴う血液疾患診療の高度化、専門化、さらに大学の一番の使命であります研究のさらなる推進のために、これまでの体制での限界を感じての決断であります。今回の血液内科の立ち上げにつきまして、学長の上本先生には多大なお力添えをいただきました。この場をおかりして深く御礼申し上げます。国内留学や大学院生として研究中心の先生も多く、血液内科の診療に携わる医局員の数もまだまだ十分とはいえませんが、村田教授のもと血液内科が大きく発展することを祈念しています。

さて、消化器内科としては、小生が理事長を任されております日本炎症性腸疾患学会の活動を通してIBD研究と臨床をさらに推し進めたいと思います。IL-17から発展してきた粘膜免疫研究、腸内細菌から始まり腸内ファージ(ウイルス)叢の解析まで進めてきた腸内微生物叢研究の総まとめの時期と考えています。世界のIBD研究は素晴らしい成果をあげ、それらが実際の治療薬の実現につながっています。IBD研究に少しでも興味のある先生は是非大学院に進んで、IBD研究の醍醐味を実感していただきたいと思います。また、日本炎症性腸疾患学会の活動の一端として日本のトップリーダーの先生方による公開講座を滋賀県で開催することなども夢に描いております。その折には先生方のご協力をお願い申し上げます。

コロナウイルスとの共存の時代などともささやかれていますが、まだまだ安心はできません。1日も早く制限のない日常に戻れることを祈っております。

令和4年10月吉日 教授 安藤 朗